

# NIKKEI BUSINESS DAILY

## Smart Times

前が当たり前ではなくなる可能性がある。一部の機能を除き、同じ場所に業務を集約させておかなくても会社は回る。  
見通しが不透明なとき経営者が決行すべきことは、損益分岐点の引き下げだ。

リモア（リモートワーク）が標準化すると常設のオフィスがいらない。そう思い始めた経営者が多いのではない。決まった時刻に決まった場所に通勤するという会社勤めの当たり

インディゴブルー会長

柴田 励司



1985年上智大文卒。マーサージャパン社長、カルチニア・コンヒエンス・クラブの最高執行責任者（COO）などを経て、2010年インディゴブルー社長、15年から会長。

## 「今日だけオフィス」構想

雇用につけるのではなく、事の1人である社団法人Pく、オフィスに手をつけて HAZEが京都市で「NAはどうか。固定費の大幅なRU」というミーティング削減になる。ただ、1週間スペースを運営している。一度でいいので半日からここを「今日だけオフィス」1日程度、集合してリアルとして複数の企業に開放し

さこそ日はその会社のオ事を提供するスペースを提供できるのだ。新型コロナウィルスが収束しても、出張は激減するだろう。感染予防対策もあり、リモアでできるのは出かけて行くこと常識となるからだ。

60万円以上が相場。「今日だけオフィス」は一日5万円、半日3万円を予定している。質料だけでも67%の削減となる。

仕事の特徴  
上、価値を創  
出するのはオ

に顔を合わせる機会を作っ ようと計画している。た方がよい。相互に近況を もっとも、コワーキング報告したり、一緒に食事を スペースやシェアオフィスしたり、雑談をする。それ とは考え方が異なる。これ が仲間意識を強化し、リモアでも成果の向上につながる。知らない人の。宴会場を保有するホテルは「今日だけオフィス」緊急事態宣言後、リモアをの集合場所、コアタイムなる。だが、「今日だけオフの「オフィス」スペースの緊急避難で終わらせず、そらぬ「コアレイス」(私の イス」は特定企業の社員、貸出事業ができる。ビジネスのメリットをとりいく。造語だが)でよい。私が理 関係者しか入室しない。ま スホテルはリモア環境で仕それが攻めの経営となる。

日経産業新聞 2020年6月5日